

第9回 2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議
(議事概要)

1 開催日時

令和6年11月13日(水曜日)14時00分から15時00分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎33階北塔 特別会議室N6

3 構成員等

○構成員

一般財団法人全日本ろうあ連盟	久松 三二	常任理事・事務局長
東京都	渡邊 知秀	生活文化スポーツ局次長
スポーツ庁	柿澤 雄二	参事官(国際担当)
公益財団法人日本オリンピック委員会	星 香里	常務理事
公益財団法人日本パラスポーツ協会	藤原 正樹	常務理事
弁護士	三好 豊	(オンライン)
公認会計士	中村友理香	(欠席のため意見代読)

○事務局

一般財団法人全日本ろうあ連盟
東京都

4 要旨

【挨拶】

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日は、お忙しいところ、第9回2025年デフリンピック大会開催に係る大会準備連携会議にご出席いただき、感謝申し上げます。
- ・私から、一言、ご挨拶を申し上げます。
- ・デフリンピック大会まであと367日である。日々大会が迫ってきていることを実感している。
- ・大会エンブレムは、全日本ろうあ連盟に使用申請を提出していただいている。11月13日現在595件申請いただいている。昨年9月13日に最初の申請をいただき、行政からが多く、全国の様々な自治体に大会エンブレムを使用いただき、デフリンピックの啓蒙啓発いただいております。感謝申し上げます。
- ・東京都小金井市にある江戸東京たてもの園において、紅葉と建物のライトアップを行う際エンブレムを紹介する企画が、11月23日から26日期間限定で開催される予定されて

いる。

- ・文化施設で大会エンブレムの使用申請が出たことで、スポーツ分野だけでなく文化関連施設等に関しても、デフリンピックについて都民、国民の皆様に理解が広がっている。
- ・大会エンブレムの効果が期待できると考えている。
- ・前回の会議でご確認いただいた「東京 2025 デフリンピック応援隊の結成と公式マスコット」であるが、応援隊への登録について 32 の行政から登録申請いただいております、随時ホームページに載せている。
- ・公式マスコットの「ゆりーと」は、大変かわいらしく非常に人気のキャラクターで評判が良い。
- ・他の自治体のマスコットと応援隊を結成することとしている。
- ・是非委員の皆様にも、応援隊をもっと広めていただきたく、改めてお願い申し上げます。
- ・6月第8回会議では、「デフリンピック運営委員会における取組」、「東京 2025 デフリンピック応援隊の結成と公式マスコット」等をご説明申し上げた。その時にご紹介した「ゆりーと」である。
- ・「デフリンピックスクエア」等についても、皆様にご確認いただいた。
- ・本日は、「デフリンピック・フェスティバルの開催」、「ボランティア募集」、「大会1年前の取組」、「大会準備状況」等について、順次ご説明をさせていただく。
- ・皆様、本日も忌憚のないご意見よろしくお願ひしたい。

【資料説明】

○デフリンピック・フェスティバル開催について（事務局）

- ・「デフリンピック・フェスティバル開催について」、デフリンピック運営委員会事務局より説明する。
- ・第7回運営委員会において、今年度の実施方針として、大規模集客施設でのイベント実施、自治体または民間の大規模集客イベントに組み入れる形で全国8か所で実施することを承認いただいた。
- ・進捗状況は、2枚目、3枚目の「実施状況一覧」のとおり、福岡市、青森市、横浜市、徳島市、富士見市、江東区の6か所で主に大規模集客施設、自治体または民間の大規模集客イベントで実施したところである。
- ・いずれとも主に、大会やデフアスリート、デフ競技のPRや啓発、手話言語・国際手話体験、デフアスリートによる講演を行い、福岡市では約400名、青森市では約500名、横浜では約350名、徳島市では約160名、富士見市では約1,300名、江東区では約1,500名と併せて約4,200名を超える市民の参加があった。
- ・自治体等の関係先と積極的に調整を進めてきたところ、予定していた開催箇所以外からも開催の要望を受けた。
- ・提案内容を確認したところ、大会の気運醸成に資するものであることから、開催箇所を

- 1 か所増やし、全9カ所で開催することを10月の運営委員会に諮り、承認いただいた。
- ・今後の実施予定は3枚目の「承認済み／申請準備中」にある、かほく市は承認済みで12月に開催予定、名古屋市については2月開催に向け、現在申請準備中である。
 - ・なお、開催終了後、主催団体から報告書、決算書、領収書等の提出を受け、審査を行うとともに、実施状況を踏まえ、来年度の事業実施に活かしていく。
 - ・以上、簡単であるがご報告申し上げます。

○ボランティア募集について（東京都）

- ・ボランティア募集について説明する。
- ・ボランティアの概要については、すでに公表しているところであるが、今週の金曜日11月15日から募集開始に先立ち、詳細な募集要項を作成・公表したいと考えている。
- ・本日がボランティア概要について、資料にまとめた。
- ・募集人数は、3,000人という規模になる。活動期間は、来年の大会前後を含め11月10日から28日までの期間となり、原則3日以上、1日当たり5時間から最大8時間程度の活動をしていただく予定。
- ・応募要件は、18歳以上の方のほかに、日本国籍だけではなく日本に滞在する資格を有する方も含めて応募できるような形で要件を定めている。
- ・なお、手話言語技能は必ずしもボランティア募集には必要要件ではないことを、注意書きに入れている。
- ・募集期間は今週の金曜日11月15日からはじまり、年明け1月31日までの期間で募集したい。
- ・都内の競技会場のほか、福島、静岡にある会場で、選手・観客の誘導等運営サポートをしていただくほか、例えば手話言語を活かした業務のサポートを含めて、多くの方々に活動いただける形で募集をしていきたい。
- ・資料裏面に提供物品について詳細等掲載している。お時間のある時にご覧いただきたい。
- ・今後募集開始した上で、3月の上旬ごろには採用結果通知を応募者に送付したい。
- ・来年度研修として、共通研修、手話言語研修・ろう者の文化等理解研修等それぞれの研修を受講いただき、本番に繋げていきたい。
- ・資料として、参考までに募集要項を添付しているので、お時間のある時にご覧いただきたい。
- ・説明は以上となる。

○大会1年前の取組について（東京都）

- ・大会1年前の取組についてご説明する。
- ・大会1年前の機会を捉え、11月15日（金）・16日（土）の2日間、ららぽーと豊洲にてイベントを開催する。実施に当たっては、全日本ろうあ連盟、東京都聴覚障害者連盟にもご協力いただく。
- ・手話パフォーマンスの実演やユニバーサルコミュニケーション技術の体験など、様々なプログラムを展開し、大会の認知・関心を更に高めていく。

- ・15日（金）に実施する、応援アンバサダーやデフアスリートを招いたセレモニーでは、小中高生による投票で決定したメダルデザインの発表、ボランティアの募集PRなどを行う。
- ・また、きこえる・きこえないにかかわらず参加できる新たな応援スタイルのお披露目を行う。お時間あるときには是非ご覧いただきたい。
- ・説明は以上である。

○大会準備状況について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・資料5「競技日程」から説明する。
- ・これまで競技会場、実施競技については公表してきた。
- ・今回具体的な競技日程について公表する。本日15時半公表する予定である。
- ・基本的に競技日程は、資料のとおり。
- ・サッカーについては、開会式の前から競技がスタートする。
- ・今回の競技日程であるセッションスケジュールは、大会直前にならないと決まらない。11月15日がICSDへの、選手の事前登録のメド切である。5か国2地域以上の選手登録が無ければ、実施されない種目が出る場合もあるため、それにより、若干競技日程についても変わる可能性がある。
- ・最終的なセッションスケジュールは実際の選手のエントリーが1か月前に確定するので、大体これくらいの日程で進めていく。
- ・なお、資料にある※印が練習日、○が競技日となっている。セッションスケジュールが決まるとメダルセレモニーのある日ない日等が決まる。
- ・次にSD視察について報告する。
- ・本年10月末にICSD競技部門の競技ごとの責任者である、ICSDスポーツディレクター（SD）に、日本に来ていただき、各会場の現地の確認をしていただいた。
- ・基本的に朝全体会を開き、その後各競技団体の方にも来ていただき、各SDと競技毎に事前のミーティングをし、午後から競技会場に行って視察した。
- ・SDの都合により、自転車はすでに7月に終了しており、会場の工事等の都合によりバスケットとバレーボールについては、来年度実施する。
- ・SDとの協議は、競技運営をする上で重要であり、今回の視察で、概ね合意を得ることができた。
- ・続いて「選手団団長セミナー」について説明する。
- ・11月18日から3日間の日程で、各国選手団の団長に集まっていただき、大会の準備状況についてご報告する。
- ・場所は、「国立オリンピック記念青少年総合センター」。大会時「デフリンピックスクエア」としての大会運営本部、様々な機能を持った施設として活用する場でもある。
- ・大会準備において、各国に正式な形で来ていただくのは、「選手団団長セミナー」のみで

あり、オフィシャルな会議として運営する。

- ・ ICSD のコーサ会長に当日ご出席いただきご挨拶していただく。
- ・ ポイントは、各国選手団が日本に来た時、日本に行くためにどんな準備をしておけば良いか。例えば、医療保険に入っておらず、ケガをした際医療機関でトラブルにならないように、医療保険に入ってから来ていただく等、こちらからお願いしておきたいこと、選手団を派遣するにあたりどんな準備をしておくのが一番良いか情報提供・情報交換の場としたい。
- ・ 競技会場は、可能なところを見ていただく。21 日にはオプションとして、福島、静岡、大島の会場も見ていただく準備をしている。
- ・ また、セミナー前日（17 日）には、「オープニングディナー」を開催する。東京産食材を使った料理の提供やろう者が楽しめる東京ならではのパフォーマンス等を提供し、東京大会に向けて各国選手団にも気持ちを新たに、東京に是非来たいと思ってもらえるものにしていきたい。
- ・ 「会場装飾」について説明する。
- ・ 大会当日、会場を彩るバナーとのぼりのデザインを制作した。大会カラーである桜色、エンブレムの親指のデザインとなっている花びらをイメージして作成した。
- ・ バナーは、資料写真にあるとおり、競技会場内に掲示するため、競技の邪魔にならないシンプルなものを作成した。
- ・ 一方、のぼりには、資料写真にあるとおり、競技会場外で飾るため、2 枚組み合わせて桜の花をイメージし複数並べることで桜並木をイメージし、選手を迎えるイメージである。
- ・ 事前の気運醸成においても活用していきたい。
- ・ 次に「協賛企業」について説明する。
- ・ 協賛企業については、鋭意現在営業している。
- ・ 9 月に 3 社公表、今回新たに、11 社加え合計 14 社となる。
- ・ 資料左側のトータルサポートメンバーが大会全体、右側のゲームサポートメンバーが特定の競技を支援するサポートである。
- ・ 現在多くの企業と交渉中。決まり次第公表していく。

【意見交換】

○東京都 渡邊次長

- ・ 日頃よりご協力に感謝申し上げる。
- ・ 着実に大会準備が進んでおり、都としても全力で取り組んでいる。
- ・ 最近のトピックスとして、11 月 15 日に 1 年前の節目を迎える。

- ・メダルデザインについて、全国小中高生から投票をいただいたものを公表させてもらう。47都道府県すべてから8万を超える投票をいただいた。スポーツ庁からも全国にお声がけいただきお礼申し上げる。
- ・次代を担う子どもたちがデフリンピックについて知り、参画する機会ができたことは、大変良かった。ご協力いただいた皆様にお礼申し上げる。
- ・11月15日に1年前の節目イベント開催する。様々なプログラムを大規模商業施設で開催する。多くの人に新たにデフリンピックを知っていただき、気運を盛り上げたい。
- ・今月の「広報東京都」に世界陸上とデフリンピックの特集記事を掲載した。225万部配布される。新聞折込、東京都及び区市町村窓口、郵便局、鉄道の駅、図書館、公民館等様々な場所で配布、ネットでも公開。
- ・ポスター等も作製し、駅、公共施設等への貼出しを始めた。全国ろうあ連盟にも提供し、活用してもらっている。
- ・日本スポーツ協会、JPSAのご協力もあり、佐賀で開催された国民スポーツ大会開会式において、東京都の選手団が、来年のデフリンピックの横断幕を掲げて入場した。
- ・いろいろな機会をとらえて、デフリンピックのPRに努めている。
- ・気運醸成と合わせ、今回開始するボランティアについて、東京2020大会のボランティアレガシーネットワークを活用するなど、より多くの方にご応募いただけるよう取り組んでいく。
- ・競技日程、SD視察、選手団団長セミナー等、さまざまな取組が進んでいる。
- ・また、協賛企業の協力も進んでおり、着実に準備が進んでいることを皆さまにお伝え、デフリンピックの理解を深めていただき、社会全体で支えていただけるような大会としていくため、引続き取組んでいきたい。
- ・皆様のご助言、ご支援をいただきながら、円滑に準備運営を進めていきたい。ご協力をお願いします。

○スポーツ庁 柿澤参事官

- ・大会の準備状況等のご報告、ご説明について、お礼申し上げます。
- ・デフリンピック・フェスティバルについて、スポーツ庁長官の室伏氏とともに、富士見市にて参加した。
- ・デフアスリート、アンバサダーの川俣さんもいらして、トークイベントをさせていただきました。デフリンピックの意義についてよく伝わった。
- ・競技日程、SD視察、選手団団長セミナー等着実に準備が進んでいると感じた。
- ・11月15日の1年前イベントにおいても、ボランティア募集、メダルデザインの発表といった取組を通じて、東京はもとより日本全国でデフリンピック気運が盛り上がることを期待している。
- ・11月15日のイベントもスポーツ庁長官とともに参加する。
- ・気運醸成について、全日本ろうあ連盟からも日本国内のみならず世界各国から選手の皆さんが参加していただくため、海外に向けての発信も重要である。

- ・今年10月には、G7の「包摂と障害に関する担当大臣会合」に三原大臣が参加され、デフリンピックについて各国の大臣にご説明、バッジ配布等を行った。
- ・今月末には、在京の各国大使館、海外公館に対して、文部科学省にお招きして、全国ろうあ連盟、東京都等と協力し、デフリンピックに関する説明会をしっかりとやる。
- ・その他、スポーツ庁で行うスポーツに関する国際会議等でもしっかりとデフリンピックをアピールしていきたい。
- ・11月15日の気運醸成イベントでは、スポーツ庁でもデフリンピックの気運醸成のため大会紹介の動画を作成して発信したい。アスリートの皆さんの動画撮影も予定している。東京都の方にご協力お礼申し上げます。
- ・スポーツ庁もしっかり協力したい。

○JOC 星常務理事

- ・いよいよ1年、現状の準備状況等のご説明お礼申し上げます。
 - ・来年の今日はいよいよ2日後の開催で、わくわくしているだろう。
 - ・スポーツボランティア団体の知人等からボランティアへの関心が高まっている印象を受けている。
- いろいろな機会をとらえて気運醸成をはかることが重要と考える。世界陸上、デフリンピック合わせての成功は、スポーツ界においても重要である。
- ・JOCに加盟しているNFと連携し、情報発信、気運醸成について協力する。

○JPSA 藤原常務理事

- ・ご説明お礼申し上げます。
- ・いよいよ1年、準備が着々と進んでいると感じる。
- ・ボランティア、今日公表されて、募集が15日からとのこと。周りにもボランティアに興味を持っている方がおられるので、公表後募集要項等お知らせし、応募を働きかけたい。
- ・気運醸成についてJPSAとして、サポート状況等について共有したい。
- ・全国8地域で、ブロック連絡会を開催している。地域及び政令指定都市の、パラスポーツ、障害者スポーツに関する行政及び協会、指導者の連絡協議会、競技団体を結ぶ連絡会である。連絡会において今年は毎回、東京2025デフリンピックの広報をしている。
- ・11月14日は群馬県で関東ブロックの会議開催があるため、しっかりとデフリンピックの紹介をする。
- ・今年度はスポーツ庁より「障害者スポーツ実施環境の構築支援事業」として予算が付いた。
- ・デフスポーツに関連して、陸上、「水泳の光刺激スタート発信装置」を、各自治体や都道府県のスポーツ協会等、陸上25、水泳9の団体から応募があり、「光刺激スタート発信装置」の購入を進め、実際地域のスポーツ大会で使用されている。
- ・大会に向けての気運醸成、大会の成功と合わせ、大会で終わりではなく、大会は始まりである。

- ・日本全体でデフスポーツを盛り上げていく。
- ・「光刺激スタート発信装置」は高額であり、今まで購入できなかったものについて、国の予算がつき、東京 2025 デフリンピック大会を契機に地域、日本全体がデフスポーツを含めた盛り上がりを継続的にしていくことが重要である。
- ・最大限協力する。

○三好弁護士

- ・詳細なご説明お礼申し上げます。
- ・1年後の本大会に向けて、着実に準備が進んでおり安心した。
- ・コンプライアンスについて、ご質問したい。
- ・協賛企業の14社について、今後どの程度目標数を掲げているのか、意思決定機関はどこか？

○東京都スポーツ文化事業団

- ・明確な目標はない。できるだけ多くの企業へ参画をお願いし、大会を盛り上げたい。
- ・契約手続きは、事業団で受付、審査を行い、東京都、全日本ろうあ連盟、外部委員が参加する契約調達管理会議へ全件付議し、内容確認の上契約締結している。

○三好弁護士

- ・よく理解できた。

○中村公認会計士（清水部長代読）

- ・先日都営地下鉄でデフリンピックのポスターを見かけ、開催が近づいていることを改めて認識できた。
- ・デフリンピック・フェスティバルの参加者も多く、このまま認識度が高まり、盛り上がりが続くことを期待している。

【意見交換総括】

○事務局

- ・今回みなさまからいただいた貴重なご意見踏まえ、今後大会の準備運営をしっかりと進めていく。
- ・今後も気運醸成について、東京都、スポーツ庁、JOC、JPSAの皆様方、お力を貸していただいて、ご協力をお願い申し上げます。
- ・次回連携会議日程については、具体的な開催時期・開催方法については改めて事務局から皆様にご連絡を差し上げる。
- ・「プレスからの問い合わせは事務局にて一括対応する。個別の問い合わせがあれば事務局にご相談を」と確認した。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日は皆様からいただいた貴重なご意見を参考に、引き続き大会の成功に向けて努力していきたい。お忙しい中ご参加いただきありがとうございました。これを持ちまして、会議を終了させていただく。皆様ご協力ありがとうございました。